

教育課程又は教員組織に関する重要な変更に対する評価結果への付記事項

法科大学院名	認証評価申請年度	認証評価時の認定
日本大学法科大学院	平成25年度	適合

法科大学院基準の大項目	法科大学院基準の評価の視点	付記事項	
		<変更前>	<変更後>
教育の内容・方法等	2-1 法令が定める法律基本科目、法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目、展開・先端科目のすべてにわたり、法科大学院制度の目的に即して構成され、授業科目がバランスよく開設されているか。また、各授業科目の内容がそれぞれの科目群にふさわしいものであるとともに、法曹として備えるべき基本的素養の水準に適ったものとなっているか(「連携法」第2条、「告示第53号」第5条)。	法律基本科目群34科目、法律実務基礎科目群10科目、基礎法学・隣接科目群8科目及び展開・先端科目群33科目が開設されている。	法律基本科目群35科目、法律実務基礎科目群10科目、基礎法学・隣接科目群7科目及び展開・先端科目群33科目が開設されている。
	2-3 学生の履修が、法律基本科目、法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目、展開・先端科目のいずれかに過度に偏らないよう規定するなど、適切に配慮されているか(「告示第53号」第5条第2項)。	修了要件総単位数は101単位であり、そのうち法律基本科目68単位、法律実務基礎科目13単位、基礎法学・隣接科目4単位及び展開・先端科目12単位を修得するとともに、残りの4単位は法律実務基礎科目又は展開・先端科目より修得することとされている。	修了要件総単位数は94単位であり、そのうち法律基本科目60単位、法律実務基礎科目12単位、基礎法学・隣接科目4単位及び展開・先端科目12単位を修得するとともに、残りの6単位は法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目又は展開・先端科目より修得することとされている。
	2-16 課程修了の要件については、在学期間及び修了の認定に必要な単位数が法令上の基準(原則として3年、93単位以上)を遵守し、かつ、履修上の負担が過重にならないように配慮して設定されているか(「専門職」第23条)。	修了要件総単位数は101単位である。	修了要件総単位数は94単位である。
	3-1 専任教員数に関して、法令上の基準(最低必要専任教員12名、学生15人につき専任教員1名)を遵守しているか(「告示第53号」第1条第1項)。	専任教員は28名である。	専任教員は24名である。
	3-3 法令上必要とされる専任教員数の半数以上は原則として教授で構成されているか(「告示第53号」第1条第6項)。	専任教員28名のうち23名が教授であり、法令上必要な専任教員の半数以上が教授で構成されている。	専任教員24名のうち18名が教授であり、法令上必要な専任教員の半数以上が教授で構成されている。

教員組織	<p>3-5 法令上必要とされる専任教員数のおおむね2割以上は、5年以上の法曹等の実務の経験を有し、かつ高度の実務能力を有する教員を中心として構成されているか(「告示第53号」第2条)。</p>	<p>専任教員28名のうち14名が5年以上の法曹としての実務経験を有する実務家教員となっている。</p>	<p>専任教員24名のうち11名が5年以上の法曹としての実務経験を有する実務家教員となっている。</p>
	<p>3-6 法律基本科目の各科目に1名ずつ専任教員(専ら実務的側面を担当する教員を除く。)が適切に配置されているか。その際、入学定員101~200人未満の法科大学院については、民法に関する科目を含む少なくとも3科目については2人以上の専任教員が、入学定員200人以上の法科大学院については、公法系(憲法、行政法に関する科目)4名、刑事法系(刑法、刑事訴訟法に関する科目)4名、民法に関する科目4名、商法に関する科目2名、民事訴訟法に関する科目2名以上の専任教員が配置されているか。</p>	<p>法律基本科目への専任教員の配置に関しては、憲法2名、行政法1名、民法5名、商法2名、民事訴訟法2名、刑法1名、刑事訴訟法3名となっている。</p>	<p>法律基本科目への専任教員の配置に関しては、憲法2名、行政法2名、民法3名、商法2名、民事訴訟法2名、刑法2名、刑事訴訟法3名の専任教員となっている。</p>
	<p>3-7 法律基本科目、基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目について、専任教員が適切に配置されているか。</p>	<p>基礎法学・隣接科目群2科目、展開・先端科目群19科目に専任教員が配置されている。</p>	<p>基礎法学・隣接科目群2科目、展開・先端科目群16科目に専任教員が配置されている。</p>